

『歌の力ー日本軍女性収容所を生きる』

ヘレン・コレイン

ブランカ・ヴァン・ハッセルト

最近友人と話している時、20年ほど前に読んだ本を思い出しました。読み返すと、初めて読んだ時と同じように感銘を受けました。この本は、第2次世界大戦中、3年間インドネシアの日本軍捕虜収容所に囚われていたオランダ人女性、ヘレン・コレインの自伝です。本の中で彼女は、インドネシアでの家族との生活の様子、戦争が始まった時、死に物狂いでインドネシアを出国しようとしたこと、彼女たちが乗った船が爆撃され、何とか生きて岸に漂着したけれども、日本兵に捕まり収容所に入れられたことを語っています。収容所の生活は勿論厳しいものに違いありませんが、話の主題は、捕虜の女性たちがどのようにして希望を持ち続け生き抜いたかということ、厳しい捕虜生活はそのすばらしいストーリーの背景に過ぎません。彼女たちはヴォーカルオーケストラ（声の交響楽団）を創りました。有名な作曲家のピアノ曲や交響曲を、記憶のままに、声を使って表現したのです。彼女たちの歌声はキャンプ内に美しく響き渡り、日本兵たちも聞きに集まったほどでした。

彼女の著書『歌の力ー日本軍女性収容所を生きる』を基に、ドキュメンタリー映画“パラダイスロード”が制作され、その主題歌“パラダイスロードーソングオブサバイバル”のCDがリリースされました。

以下、ヘレン・コレイン自身が書いたCD附属のコメントを引用します：

「パラダイスロードで歌われているこのCDの音楽は“ボーカル オーケストラ ミュージック”と呼ばれ、ピアノ曲や交響曲を女性たちが歌で表現したものです。この創造的な音楽活動により、私達捕虜の女性たちは、第2次世界大戦中、オランダ領東インドで、日本軍占領下での苦しい状況を堪え抜き、生き残ることができました。(1949年:オランダからインドネシア独立)

1942年4月から1945年8月まで、およそ600人のオーストラリア、イギリス、オランダの女性と子供たちが、スマトラ島の日本軍による捕虜キャンプに収容されました。捕虜たちの一部は、南スマトラの自宅から連行され、また一部は、バンカ海峡で撃沈されたシンガポールからの疎開船に乗っていた人たちの生き残りでした。私と私の10代の二人の妹もその中にいたのです。

この3年半の間、私たちはボロボロのバラックに詰め込まれ捕虜生活を送りました。十分な食料も無く、マラリア、赤痢、脚気の薬も不足していました。戦況のニュースも入らず、男性捕虜キャンプにいる夫たちや父親たちのこともわからず、他の女性キャンプにいる親戚の女性のことでもわかりませんでした。(日本軍はオランダ領東インドで、10万人近くの非アジア人の市民を捕虜としました。) 私たちには読む本もなければ、音楽を演奏する楽器もなかったのです。しかし、私達には歌うための声がありました。

初め、私たちは英語やオランダ語でポップスを歌っていましたが、一年後にはもう歌い尽くしてしまいました。そこで二人のイギリス女性がヴォーカルオーケストラを思い付いたのです。マーガレット・ドライバークは、シンガポールで長老派教会の宣教師だった人で、その前は長い間ピアノ教師、教会のオルガン奏者をしていました。彼女は記憶を頼りにピアノ曲や交響曲の楽譜を再現しました。ノラ・チェンバースはマラヤの政府役人技士の妻でしたが、ドライバーク女史を助

けて、その楽譜の音楽を声楽用に編曲し、私の妹たちを含めた30人のオランダ・イギリス女性から成る合唱団を指揮しました。1943年12月27日の初コンサートは、私達全員に深い感動を与えました。クラシックよりポップスが喜ばれるだろうという私たちの予想ははずれ、ドヴォルザークの「新世界より」のラルゴ（家路）に続いてバッハ、ベートーベン、ショパン、チャイコフスキーの楽曲を歌う壮大な歌声が施設を充たしました。飢え、病気、ネズミ、ゴキブリ、南京虫、トイレのにおいが充満する中で、この歌声は奇跡のように感じられました。この音楽により、私たちは心を強くすることができたのです。困難に負けないよう、自尊心をもって何としても耐え抜こうと思ったのです。

その翌年ヴォーカルオーケストラは数回コンサートを行い、ラヴェル作曲の「ボレロ」、民謡の「蛍の光」を含む30曲のレパートリーを有するようになりました。しかし、その後、栄養失調と熱帯性の病気により半分以上の団員が亡くなってしまい、コンサートは行われなくなりました。

戦後長い間、私たちの作ったヴォーカルオーケストラの楽譜は忘れ去られていましたが、1981年、ワシントンDCに住む私の妹アントワネットが、カリフォルニア州パロアルトのスタンフォード大学に、持っていた楽譜コレクションを寄贈したのです。これを基にして、ペニンシュラ女性合唱団によるコンサートが行われ、その時の録音テープがスタンフォード大学の音楽記録アーカイブに納められました。更には“ソングオブサバイバル”のドキュメンタリーテレビ番組がアメリカとその他の国々で放映されました。そして、私の著書“Song of Survival—Women Interned (『歌の力ー日本軍女性収容所を生きる』)” (White Cloud Press, 1995)が出版され、ソングオブサバイバルの楽譜も出版されました。そして、長編映画“パラダイスロード”の制作上映に至ったのです。」

映画の中の歌はオランダの“マル・ババ女性合唱団”によるものです。この合唱団は数か国において何度もコンサートをしています。これは第2次世界大戦中に敵対したオランダと日本の仲直りのため、また世界平和の促進のために、オランダ人と日本人女性の混成チームによって行われたものです。

訳：神村伸子 (Nobuko Kamimura)

楽譜参照：

<https://library.stanford.edu/blogs/stanford-libraries-blog/2015/05/songs-survival-vocal-music-women-pows>
<https://singingtosurvive.com/>

